



洋上アルプス

No.252 平成28年3月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



大学生が林野行政を体験

(2月22日～3月4日)



小瀬田森林官と植付け体験

2月22日から10日間の日程で、平成27年度(春期)九州森林管理局インターンシップが行われ、佐賀大学3回生の吉岡裕哉さんが参加しました。

カリキュラムでは、世界自然遺産地域も含む国有林をフィールドに、縄文杉の保全対策、黒味岳気象データ収集、「屋久島レクリエーションの森」における取り組み、森林植生調査など森林生態系の保全・保護等に携わる当センターの様々な業務を体験しました。

大半が屋外実習で体力的にも大変ハードですが、吉岡さんの若さと積極的な姿勢で林野行政を満喫し無事全日程を終了しました。

著名屋久杉を樹勢診断

(2月22日)

屋久島で多くの人々が訪れる有名な屋久杉の保全と管理を行うことを目的に樹勢診断を行っています。樹木医による、荒川登山道軌道沿いにある「三代杉」の樹勢診断を行いました。

この「三代杉」は、諸説ありますが、一代目が約2千年前に倒れ、倒木更新した二代目が約千年で伐採され、その上に切り株更新した三代目が350年の時を経て、3千数百年の間命が受け継がれていると言われていいます。

また、4本で支える根張の部分ほどの木よりも高く、樹高も約38mと形質が良いことから精英樹にも指定されている貴重な巨木です。

今後は、診断結果を踏まえ樹勢回復措置等を講じることになります。



三代杉の根張

荒川登山道の安全点検

(2月26日)



危険箇所の点検

本格的な登山シーズンを迎えるに当たり、屋久島山岳部利用対策協議会では荒川登山道(7km)の安全点検(第2回)を実施しました。歩道敷の状況11項目、斜面の状況6項目、昨年7月に実施した危険箇所の状況確認等多岐にわたり点検を行ったほか、トロッコ転換地点に設置されていた携帯トイレブースを翁杉周辺へ移設しました。

登山者やガイドの皆様には、歩道に標示した注意板等を確認し安全な登山を楽しんで頂くようお願いします。

屋久島世界自然遺産の経緯と概要

屋久島は、平成5年12月、その生態系と自然景観の自然的価値が認められ、白神山地とともに日本で最初の世界自然遺産に登録されました。毎年多くの観光客が、「神秘的屋久島」に感動を求め訪れています。今回は、屋久島が世界自然遺産として登録された経緯と概要を紹介いたします。

世界自然遺産登録されるには、4つの基準(クライテリア)があり、屋久島はそのうち2つの基準を満たしています。

- 最上級の自然現象又は類い希な自然美・美的価値を有する地域を包含する。
- 陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や生物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。(2006.7変更)

また、この基準の履行には、管理計画の策定や法律、規則、制度による長期的で適切な保護や生物多様性の保全において最も重要な地域であるべきなど実効性と保護が求められています。

屋久島は昭和39年に霧島屋久国立公園に指定されていますが、世界遺産登録には広大な森林を長期的保護することが必要であり、国有林は平成5年3月に原生的な天然林の保存と、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究等に資することを目的とした森林生態系保護地域(図1)を設けました。特に保存地区9,600haは、原則として人手を加えずに自然の推移にゆだねる^(注)ことなど厳しい条件を設定しました。その他、屋久島原生自然環境保全地域、特別天然記念物屋久島スギ原始林、天然記念物などで保護されています。

屋久島の世界自然遺産を守っていくために何が必要か！

屋久島は人が立ち入ることができる珍しい世界自然遺産、故に多くの登山者等が入山することによる生態系への影響を防止するため、展望デッキや木道を設置し保全に努めています。また、登山者等の協力、マナーの遵守がなければ屋久島の自然遺産は守れません。しかし、残念ながら依然として登山道以外や縄文杉立入禁止区域に入ったり、許可なく工作物を設置するなどの事案が発生しています。

日本の素晴らしい自然は、私たち日本人共通の財産です。そして世界自然遺産は、世界の人々の共通の宝です。日本にある世界遺産は他国の人々に代わって、私たち日本人が守っていかなくてはなりません。私たち一人ひとりがそれを自覚して、自然の姿を守り、後世に伝え、残していこうという意識を持つことが大切です。

(注：モニタリング、生物遺伝資源、学術研究、公益上の為の必要な行為は除く)



図1 屋久島国有林の面積

・屋久島町面積(口永良部除く)	約50,500ha
・国有林面積(屋久島面積の76%)	約38,300ha
・森林生態系保護地域(保存地区)	約9,600ha
・森林生態系保護地域(保全利用地区)	約5,585ha
・世界自然遺産登録地域	約10,747ha

お知らせ!! 当センター内に材鑑標本を展示

皆さんは、標本と聞いて何を連想されますか? 虫・蝶・植物…。当センターでは屋久島の森林にある樹木の標本を作成しました。針葉樹、広葉樹、低地から高地にある樹木の38種類を、樹木の幹を60センチ程度に切断し、樹皮や縦・横・斜めの切断面が判るように作成しました。皆さんもぜひ一度足を運んでいただき、色、肌触り、樹木の断面等、それぞれの木の違いを、見て、匂いをかいで、触れてみてはいかがでしょうか。お待ちしております。



エントランスに展示中の材鑑標本38本

屋久島の森に眠る遺構や人々の記憶 (第3回)

— 林業＝スギ材の生産? — 柴崎 茂光 (国立歴史民俗博物館研究部・准教授)

屋久島の林業といえば、小杉や屋久杉に代表されるスギの巨木の伐採や運搬をイメージされる方は多いでしょう。もちろんスギ材が、屋久島国有林の主要な生産物の一つであることは確かです。

しかし、歴史を少し紐解いただけでも、異なる林業の姿が見えてきます。戦前期には、里近くの森林軌道沿いに製糶工場、いわゆる鳥もち工場が建設されました。山腹に生育するヤマグルマの樹皮を剥ぎ、森林軌道などを使って工場まで運びました。清水が流れる漬込タンクの中に樹皮を入れ、何回かタンクを替えながら4か月程度漬け込みます(写真1)。その後、腐熟の進んだ樹皮を水車でつくと、鳥もちができました。製品となった鳥もちは樽に詰められ、島外に出荷されました。湿布薬といった医療品だけでなく、戦闘機の燃料タンクのカバーにも利用されたといわれています。このほかに、樟脳生産や、端材を利用した屋久杉油の製造なども、官民を問わずに行われていました。



写真1 安房整糶場の風景 (年代不詳、おそらく昭和初期)

また、昭和30年頃までは、広葉樹の木炭の生産も盛んでした。最大の林業集落だった小杉谷でも、昭和初期の写真を見ると、集合釜から炭を焼く煙があがっているのが確認できます(写真2)。この集合釜は後に壊されますが、窯があった地域は、戦後以降も「製炭場」と呼ばれていました。宮之浦川上流域に存在していた官行集落も、当初は木炭生産が中心でしたし、永田集落の上流地域に建設された軌道からも、木炭が盛んに運び出されていました。

なお、昭和30年代に入ると木炭生産は衰退します。その一方で、パルプ材として里付近の広葉樹の森が、大面積で皆伐されるようになりました。島の林業はさらに活気を帯びましたが、老齢過熟林を大面積皆伐で切り進める方式は、山の姿を大きく変えました。そして、こうした状況を止めるために、一部の島民や自然保護団体が全面伐採禁止運動を起こしました。

50-70年前にさかのぼれば、林業のあり方は全く異なっていました。林業という言葉や、森から得られる知恵・喜び・貨幣全般として広く解釈するならば、現在の屋久島の林業は、森林教育、森林レクリエーション(森林観光)が中心的存在だと捉えることもできます。今後新たにどんな森の業が誕生するか楽しみです。(つづく)

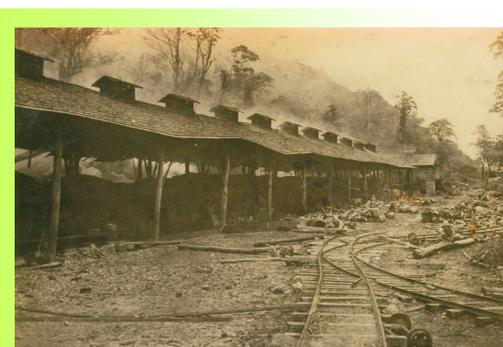


写真2 小杉谷地区に建設された集合釜 (昭和4年)

参考文献

熊本営林局(1939) 糶・屋久杉油製造並に「シキミ」種子利用. 熊本営林局.

写真1、2: 屋久島森林生態系保全センター所蔵

屋久島の植物



ケウバメガシ (ブナ科)

本州中部以南に分布する常緑低木。海岸の岩場や海岸近くの林内、山地の尾根に見られる。春、新葉と同時に雄花序が伸びる(3~4月)。堅果(どんぐり)は開花翌年の秋に熟す。備長炭の原料。屋久島では鬼火焚きでバチバチ音を出して燃やすことから「バチバチノキ」という。

屋久島生態系モニタリング



屋久島南部等の植生垂直分布調査（平成25年度）

●標高 800 ㍍プロット（湯泊林道沿い）

[高木層] イスノキが最も多く、ホソバタブ、イヌガシが続く。クロバイ、エゴノキ、ヤクシマオナガカエデなどが混生。

[亜高木層] サクラツツジが最も多く、ホソバタブ、イヌガシ、シキミ、ヒサカキが続き、エゴノキ、イスノキなどが混生。

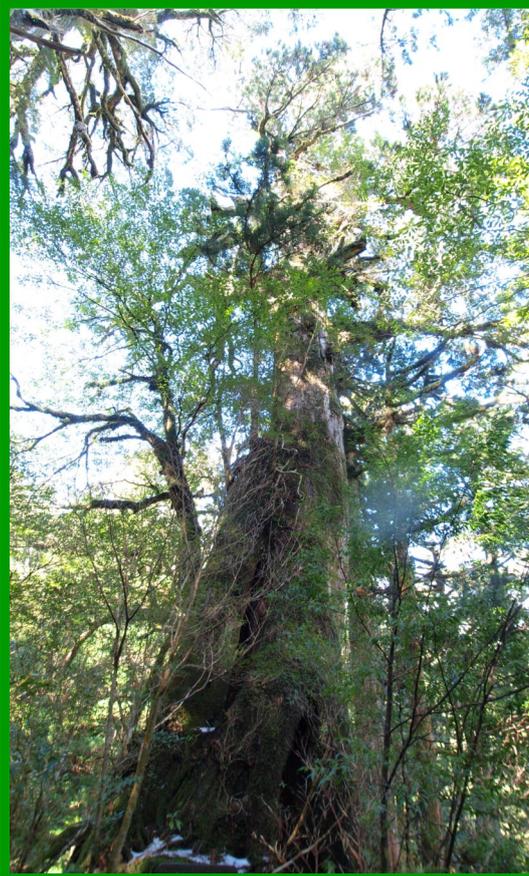
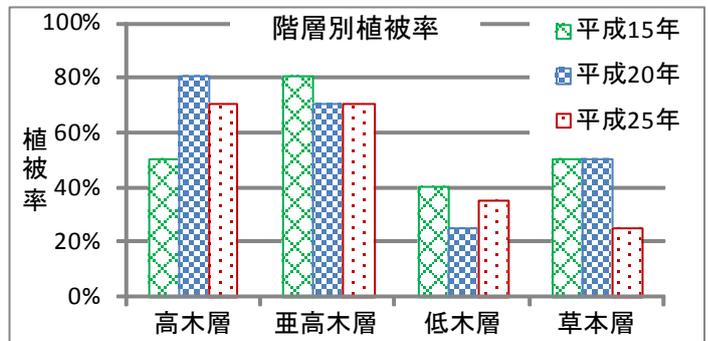
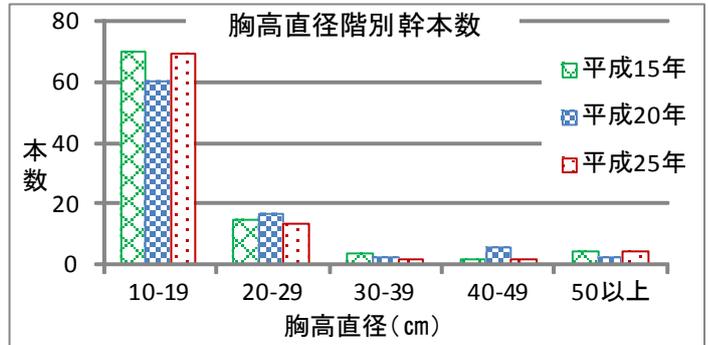
[低木層] イスノキが最も多く、ヒサカキ、サカキ、イヌガシ、シキミ、サクラツツジ、サザンカなどが混生。

[草本層] カツモウイノデが多い。谷に近い湿った環境で、岩上、樹上の着生植物が多い。

[胸高直径階別幹本数] 胸高直径 10-19 cmの本数が平成 15 年度から 20 年度にかけて減少、自然間引きが起きたことが予想された。また 20 年度から 25 年度にかけて増加し 15 年度と同等の本数となった。

[階層別植被率] 高木層、亜高木層、低木層は植被率が多少変動している傾向。草本層の植被率は平成 20 年度から 25 年度にかけて半減。被圧による影響以外にヤクシカの影響も考えられる。

[調査結果の概要] 照葉樹が優占する広葉樹天然林。溪流沿いで、スギやヒメシャラの高木が見られる。高木・亜高木のイスノキ等照葉樹の樹冠うっ閉が顕著であるため、低木層、草本層の光環境に影響があると思われる。林床でヤクシカの嗜好植物であるカツモウイノデが草本層の優占種になっているのは、ヤクシカによる採食圧の影響と考えられる。



巨樹・著名木 屋久杉

三根杉

三根杉は折れた屋久杉の上に更新したと思われ、高い株を抱え込んでいるため、根元が大きくふくれあがり中は空洞になっています。屋久杉の世代交代がよくわかる例です。

三根杉にはヤクシマシャクナゲ、アクシバモドキ、ヒカゲツツジ、ヤマグルマ、サクラツツジ、シキミ、ナナカマド、ソヨゴ、スギ等が着生しています。



- 樹高：26.1㍍
- 胸高周囲：9.3㍍
- 樹齢：推定1100年
- 標高：1030㍍
- 場所：ヤクスギランド150分コース沿い

参考文献：屋久杉巨樹・著名木 改訂版(H11.7)